

紹介します！安全・健康職場

海外と国内が^{せっさたくま}切磋琢磨して ゼロ災運動を底上げ

(株)東研サーモテック

(株)東研サーモテックは、1939 年創立で、主に自動車部品等の金属熱処理加工を行う企業である。従業員数国内 900 人、海外 2,500 人を抱え、国内 10 拠点、海外にはタイ、マレーシア、中国、メキシコと 4 拠点を構える。

同社では 2014 年からゼロ災運動を本格的に開始し、2018 年にはタイの現地法人 THAI TOKEN THERMO CO., LTD においても、ゼロ災運動を実施。現地の従業員が熱心に取り組む姿が、国内でのゼロ災運動の振り返りを促し、全社のゼロ災運動をさらに活性化させた。

同社のタイでのゼロ災運動の実施内容とその後の国内での活動の状況について、同社執行役員で総務部長の小田実さんと、総務部秋山敦哉さんにお話を伺った（写真 1）。

国内でのゼロ災運動

同社では、2014 年までの過去 10 年間、毎年休業 4 日以上以上の労働災害が発生していた。

その状況を打開したいと、2014 年 10 月に社内で経営幹部を対象にゼロ災トップセミナーを実施し、同社でのゼロ災運動が本格的に始まった。中でも同社のゼロ災運動の中心となる取組みの一つに「ボード KYT」がある。ボード KYT と



写真 1 左から小田さん、秋山さん

は、全てのラウンドを 10 分で実施するトレーニングで、忙しい日常業務の中で、集中して行えるように、時間を設定した。1 ラウンドの危険の出し合いを 3 項目とし、4 ラウンドまで全て行っても 10 分以内で終了できるようにした。

制限時間を設けることで、集中して実施できることに加え、あらかじめ役割分担などを明確に設定しているため、チームの全員が緊張感をもって実施できているという。

また、チームのレベルに合わせて、KYT に慣れていないメンバーがいる場合は一般的なテーマのイラストを使ったりもするが、現地現物の写真を使うなどもし、従業員がより自分のこととして、危険を捉えやすいように工夫している。また危険予知する内容も、その日の作業にあわせて、定常作業だけでなく非定常

作業についても実施しているという。現在では、より「身に付く」内容とするため、身近に共通する作業テーマや過去の災害をテーマにしたシートを作成しようとしているとのことだ。

■ タイでのゼロ災運動

同社では、タイに現地法人を構え、国内外で最大の1,500名程度の従業員を抱えている。

この職場では、以前からいくつかの問題点があった。

例えば、文化的背景もあり安全に対する考えが違ふこと、現地スタッフと日本人出向者とのミスコミュニケーション、「安全は安全担当者がやるものだ」とい

う当事者意識の欠如、話し合って行動する雰囲気希薄であることなどだ。

そのような状況で、2018年からタイでのゼロ災運動が始まった。まずは、現地の安全担当のメンバーが日本で研修を受け、2019年には5日間の「ゼロ災集中研修」を実施した。対象は、現地の部門長や副部門長と、現地法人社長を含めた日本人出向者全員だった。

研修の内容は、まず導入として、ある企業でのゼロ災運動の取組みについて詳細に記された書籍¹⁾を全てタイ語に翻訳して、受講者に配布。読了後、感想を持ち寄って、ゼロ災運動の理念や概要を理解させた。その後、KYT基礎4ラウンド法や先述のボードKYTなどの実技研修を実施、最終的にはボードKYTを10分で実施することを目標とした内容だった(写真2、図1～2)。

日本での事務局の秋山さんは、「カリキュラムや教材を考える上で、言葉の問題に苦労しました。日本語をそのままタイ語に翻訳するだけではなく、日本語の微妙なニュアンスなどを伝えるため、現地の安全衛生スタッフ(マニット・チョンハイ(ニックネーム:アット)さん)(写真3)とテレビ電話を通じて何度もやりとりしました。通訳のゴンさんにも苦労をかけました」と言う。



写真2 身ぶり手ぶりを交えて現状把握をする



図1 ボードKYTで使用するイラストシート例(職場の写真バージョン)



図2 KYTボード例(タイ語)

そのような事務局の綿密な準備が、功を奏し、受講者にも安全衛生活動を自分たちのこととして捉え「一人ひとりカケガエノナイ人」というゼロ災の理念が伝わったようだ。

実際、研修中の実技の様子について、「日本人とタイ人と国ごとにグループ分けをしたが、やる気に火が付いたタイ人の活発な議論の様子に日本人のグループも大きく影響を受けたようだ」と小田さんは言う。

加えて、研修実施後、タイ人の受講者が自発的に現場の従業員に「ゼロ災」について伝える姿も見られたという。

現地スタッフのアットさんも、研修での受講者の様子に達成感を得て、「ゼロ災運動やKYT活動をどう進めていいか不安だったし、みんながついてきてくれるのか自信もなかった。けれど研修での、みんなの様子を見て、また日本の事務局など相談できる相手もでき、自分の中でも「ヤラサレ感」から「ヤル気」に気持ちが変わった。今後もどんどん日本とタイが切磋琢磨できたらいい」と言う。

また、小田さんは、この研修が成功した理由の一つに「トップの率先垂範」があったと言う。「(先述の) 現地の問題点

について、現地の社長も問題意識をもって、(導入時の) 読書の感想も全受講者の中で最初に提出するなど、率先して取り組んでいました。トップがやると周りもやらざるを得ないですね(笑)」と振り返る。

■ 日本の活動を振りかえって

タイでの5日間の集中研修で、タイ人が積極的に取り組む姿に手ごたえを感じた日本の事務局は、日本国内の活動を振り返った。国内では、工場ごとにやる気や活動の質のばらつきが見られ、それには、少なからずトップ層の姿勢も影響しているように感じられたそう。そこで、各工場のトップ(部門長、副部門長)を集めて、検討会を開催。本音を聞き出す機会を設けた。すると「生産性を優先させていた」「担当者任せにしていた」「自分が活動をできていなかった」などの声が聞かれ、各工場の現状がわかってきたという。

■ 「ゼロ災推進計画」の策定

その検討会での結果をもとに、各工場で、それぞれの活動を振り返り、行動計画を策定してもらうことにした。それらを骨子に全社の「ゼロ災推進計画」の策定を計画している。

一方、「トップの率先垂範」を示すべく、9月に行われた全社KYT大会では、日本の社長、専務、常務の4人によるKYTの実技発表を盛り込むなどして、従業員全体に向けてトップの姿勢を示している。

さらに2019年9月からは、管理部門も含め、全職場にて「始業前KYT」をスタートし活動を定着するための企画に取り組んでいる。



写真3 左からタイ安全衛生担当者のアットさんと通訳のゴンさん

■ゼロ災運動に取り組む効果

同社のゼロ災運動について、秋山さんはこれまでを振り返り、「以前は、社内の安全衛生活動に行き詰まりを感じていました。ゼロ災に取り組むために講師（中防災公認 KYT インストラクター）との新たな出会いがあり、また部長や関係者との連携もできて自分自身も楽しさを見いだせています」と話す。

また、小田さんは「タイの活動と国内の活動が切磋琢磨して、社内のゼロ災運動を盛り上げている。ゼロ災運動のベースには、自分も含めたトップ層が本気で取り組むことが重要だし、各部門との連携も時間をかけて調整していきたい。まだまだやることはあるが、ゼロ災運動を通して、社内の一体感・連帯感を作ることが、労務管理やコミュニケーションの

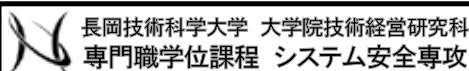
円滑化などにも役立つものがある」と言う。

また、「KYT の取組みは人材育成などの要素もあり、総務部として、管理職などの人事評価に反映させることも検討したい」と言い、組織的に継続させていくための仕組みを検討するという。

同社がゼロ災運動を本格的に導入してから5年。海外と国内が切磋琢磨して運動が盛り上がる中、これからゼロ災運動の定着に向けて取組みがさらに進んでいくことだろう。（編集部）

注

1)『ゼロ災運動が会社を変えた！』（平野雅之著 中防災）



社会人学生(修士課程)募集

特別講演会・専攻説明会 無料

2019年

12/ 8 ⑤ 東京 13:30～

12/14 ⑤ 大阪 13:30～

12/15 ⑤ 名古屋 13:30～

2020年

2/ 1 ⑤ 長岡 13:30～

2/ 8 ⑤ 東京 13:30～

特別講演会・専攻説明会を下記日程にて行います。詳細につきましては、専攻HP(下記URL)にてご確認ください。

社会人を考慮したシステム

- 週末土・日曜日や連休を利用した集中講義とe-learningを併用します。
- 講義は長岡と東京で行います。長岡のみ、東京のみの受講でも修了可能です。
※選択科目によっては長岡・東京の両方の受講が必要となります。
- 大学卒業資格以外の方でも経験に応じて応募して頂けます。
- 社会人のみのコースですので、実践的な内容です。システム安全実務演習Aは、業務に関連したテーマで行うことが可能です。
- システム安全を学んだことが明確になる「システム安全修士(専門職)」の学位が授与されます。

専攻HP URL : <https://whs.nagaokaut.ac.jp/system-safety/>

問合せ先

長岡技術科学大学 システム安全専攻 専攻長・教授 門脇 敏

E-mail : safety@mech.nagaokaut.ac.jp TEL : 0258-47-9719/FAX : 0258-47-9573

実務経験を有する社会人の方を対象に、工学の知見と法規・安全規格類を基盤とした安全技術とマネジメントスキルを統合した“システム安全”を学べる専門職学位課程(修士課程)で、基礎理論から実践的な安全方策とマネジメントまで学べます。また、リスクアセスメントなどの基礎スキル、ロールプレーによる認証プロセスの理解などを基礎演習で学ぶことができます。

●2019年度(2020年4月入学) 入試日程

注) 第3回募集は、第2回募集までの志願状況等によっては実施しない場合があります。

	2回募集(8名)	3回募集(若干名)
願書配布	2019年5月下旬～(下記問合せ先に請求下さい)	
出願期間	2020年1月17日(金)～1月23日(木)	2020年2月19日(水)～2月24日(月)
試験日	2020年2月2日(日)	2020年3月1日(日)
試験内容	書類審査、システム安全に関する小論文、面接	
合格発表	2020年2月20日(木)	2020年3月12日(木)